

議 事 録

会議の名称	令和8年度岩倉市自殺対策計画推進委員会
開催日時	令和8年5月14日(木) 午後1時30分から2時40分まで
開催場所	岩倉市役所 第一委員会室
出席者	大藪元康委員長 若杉賢司委員 木村俊治委員 加藤佳子委員 押谷誠委員 王子田美樹子委員 辰田紘崇委員 小川美枝子委員 渡邊あけみ委員 大久保梢委員 松本勇二委員 山田道子委員 福祉部長(佐野剛) 福祉課長(古田佳代子) 福祉課社会福祉グループ長(小南友彦) 福祉課社会福祉グループ主査保健師(佐野和代) 福祉課社会福祉グループ主査(浅井淳一郎)
欠席者	なし
説明者	福祉課社会福祉グループ(佐野和代)
会議の議題	1 あいさつ 2 自己紹介 3 議題 (1) 岩倉市における自殺者の状況について (2) 令和7年度計画推進進捗報告について(第2期計画) 4 その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文筆記 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他()
会議に提出された資料の名称	(資料1) 岩倉市自殺対策計画推進委員会名簿 (資料2) 令和7年度岩倉市自殺者数(確定) (資料3) 地域自殺実態プロフィール 2025 (資料4) 自殺対策計画進捗確認シート(重点施策) (資料5) 自殺対策計画進捗確認シート(基本施策)
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	なし

1 あいさつ

2 自己紹介

3 議題

（１）岩倉市における自殺者の状況について

事務局から資料２、資料３により説明。

委員長：資料３の重点パッケージでは高齢者、生活困窮者、無職、失業が記されている。岩倉市行政の重点施策の３点に対応しているところがあると思った。重点施策３が若い世代の支援について、重点パッケージに若者が入っていないということは、効果があるということではないか。

委員：同居ありの人と、独居の人がいるが、世帯構成が２人を切るような状況になってきている中で、家族の中で相談することが難しい状況にあると思う。物価高騰を含め、経済状況も決して良くないので、そういった事が背景にあるのかもしれない。

委員：近隣の市町村のデータはチェックしているのか。岩倉市だけ見ても、統計学的に見て全く参考にならない。全国的に子どもの自殺が増えているのなら、岩倉市の子どもがたまたま今死なないだけで、潜在的にトラブルを抱えている子がいるかもしれないから、どういう分布で死んでいるのか、周りと人口の対比はどうか、比較対比してからこの計画を立てた方がいいと思う。

委員長：周辺の市町村のデータはどうか。

事務局：県は調べているが、周辺の市町村については今回調べていない。

事務局：近隣なのか愛知県なのかはまた考えるが、対比は重要だと思うので、今後資料を作成する時に、それも入れて岩倉の特徴をより捉えていく。岩倉だけ見ているだけでは、対策が後手に回ってしまう可能性があるので、全国的に課題となっているお子さんへの対応もしていきたい。今年度は学校向けにゲートキーパー研修を教職員向けに考えている。

委員：令和７年に２０代男性と１０代女性が自殺している。小中高生だったら、学校への対応が必要だし、高校を卒業しているとどういった支援が必要かというこ

とになる。何が課題になっているのかというのは難しいと思うが、若年で自殺者は出ているので、プロフィールでは高齢の方が、重点パッケージの中に入っているが、若年の方の対策というところにも目を向けていく必要がある。実際私もメンタルヘルスの相談業務をやっているが、若年者は増えている印象はある。既遂にならなくても、未遂者は若年に増えているのではないかという印象はある。

委員長：背景は何か。

委員：保健所は警察から自殺未遂や他の人に危害を加えた人の連絡は入る。若年の人は圧倒的に自傷が多い。例えば大量服薬だったり、リストカットであったり、救急搬送されたりする人で警察が入るケースの相談や連絡は来る。昨年は圧倒的に自傷の子が多いという印象はある。薬を手に入れやすくなり、インターネットで情報を入れやすくなっていることは、自分が若年の頃よりはそういったものにアクセスしやすくなった状況はあると感じてはいる。

委員：資料2の岩倉市の自殺者数では、もう少し詳しい何か背景が分かれば、対策とかも分かるのではないか。私には小学生の子どもがいるが、学校から電話や、アプリ等の色々な相談窓口の情報を持って帰ってきてくれる。学校側も色々と考えてくださっていると感じている。

委員長：相談の窓口が多くなるということは、相談のしやすさになると思うので、良い取組になると思う。

委員：老人会に入り、色々な支援をもらっている。一人暮らしの人はどんどん行くとよい。自分は岩倉市からのLINEも利用して、老人会にもどんどん参加して、明るく生きていこうと思っている。物価高騰についても自殺の原因になっているのかもとも思っている。

委員長：物価高騰だけは一つの市ではどうにもならないが、委員が言われたように気持ちの持ちようも一つにはあると思うので、大変な状況の中でそれを共有する場があるとか、LINEを高齢者は使えないのではないかという思い込みがあると思うので、どんどん使っていくと良い。

委員：10代の女性の自殺者が気になった。今までそういう人はいなかったような記憶である。若い人もやはり色々な意味で生きにくい社会ではないかと思う。自

殺する人は自殺したくてするわけではなく、他に方法が見つからないから、自殺を選ぶわけで、追い込まれていると思う。10代は春秋に富むというか、本当は死にたくなかったのだろうに、残念だ。

委員長：10代女性。一人であつてもやはり大変なことではある。

委員：私はハローワークにいますので、資料2の数の中で、有職なのか無職なのかが気になる。

委員長：資料2の方の仕事の状況はどうか。

事務局：書き出してある人が、それぞれ仕事をしているかどうかまでは分からないが、無職の人が多かったという印象はある。

委員：年代的には、30歳代、40歳代、50歳代あたりは今働き盛りの年代。今ハローワークの方では仕事探しに来る方の登録は、60歳以上の方が増えてはいて、70歳代の方も仕事探しにみえている。仕事の有り無しというのは、大分関係してくる気はしている。

委員：私はこの自殺対策委員会に参加して、困っている人たちを助けてくれる窓口がこんなにあるということを知った。しかし自殺される人がいるので、自殺の理由が困窮なのか、病気なのか、資料2のところに補足できる情報が出てくるのであれば、今後多少考えやすいと思う。

委員：私は老人クラブの副会長をしている。老人クラブの会員は岩倉市では2,000人くらいいる。今日の資料で令和7年にこれだけの自殺者があるということを初めて知った。老人クラブはどうしたらいいのかという疑問はある。

委員長：老人クラブの活動はまずは出ていく場所、つながる場所なので、ぜひ継続を。

委員：地元で毎月サロンを開いて、一人暮らしの人とかにも楽しんでいただけるようにし、来なかった人には連絡している。

（2）令和7年度計画推進進捗報告について（第2期計画）

事務局から資料4、資料5により説明。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：「大切な人を亡くされた人のお話会」について、私の知っている方で、そこで知り合った方と、その会だけでなく、今も付き合っているという話を聞いた。とてもいいことだと思っている。

委員長：活動によってつながったなら本当によい。普段の計画の評価というと、人数とか回数とか見てしまうが、少ない人数でもやはり、活動し続けることが評価になる。

委員：サロン活動はいい活動だとは思いますが、我々民生委員でふれあい昼食会をやるが、出てほしい人は出ない。そういう人たちに参加してもらうにはどうしたらいいか。民生委員の関係で言うと、見守りがあるが、僕らは一人暮らしの孤立している人への対応なので、80歳代の自殺された人は同居なので、我々が行くということはない。

委員：私は以前民生委員をしていて、民生委員をやめた時に地域の一人暮らしや孤独になる人を集めて、何かしようと思いサロンを始めた。もう4年になるが、毎回30人くらいの参加がある。毎月1回参加者は楽しみにしている。情報交換や遊びをして、市からの補助と毎回参加者に一人100円いただいて運営している。

委員長：民生委員の活動は、出てほしい人が出ていただけなくても、その方がちょっと行こうかなと思った時に参加できる、そういった場として続けてもらいたい。ゲートキーパー研修で民生委員が関わっていただいたということで、自死の方を減らすテーマなので今後お願いしたい。

委員：自殺した高齢者の方は鬱病と書いてあるが、市が把握した人なのか。

事務局：こちらは厚生労働省の委託を受けた「いのち支える自殺対策推進センター」が全自治体に提供する地域ごとにいただいた資料で、市は個別では把握していないものである。

委員：今日の会議は、来年から岩倉市が自殺の人を減らしていくための政策を設定するところで、どうして亡くなり、そこからこぼれている人だったらどうしてこぼれたのか、それを調査して対策しないと対策として成り立たない。「大切な人を亡くされた人のお話会」は3回で延べ人数12人の参加というのは、費用対効果が悪い。亡くなった人のほとんどが鬱病になってから亡くなっているの

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

だったら、メンタルクリニックと連携してケアを厚くするとか、具体的な対策が必要。学校はこれ以上のことはできないと思う。学校は他のことで疲弊してしまっている。小中学生の自殺については頑張っているが、先生達のマンパワーがなくて、市からお金を入れる等しないとその対策自体は難しい。

委員：国の方から県を通じて自殺予防にかかる取組について各学校に通知が来た。今年度各学校で作っている学校経営案というものがあるが、学校運営で何を重点に置いてやっていくかを各学校で作っているが、その中に今年から自殺予防教育を1つ付け加え、より意識して取り組んでいこうと変わってきている。年に3回教育委員会が主催して先生方への研修会があるが、福祉課と協力して先生方に対してゲートキーパー研修をし、子ども達を見守っていくということで、今年度は取り組んでいく。

委員長：学校は子どもの変化に気づける場なのでいいことだと思う。多機関との連携というのも良いと思う。

委員：先生方へのゲートキーパー研修は業務かボランティアか。

委員：業務。夏休みと冬休みと春休みに実施する。

委員：鬱病というのは本人に伝えるのか。地元で「私鬱病だったの。今は外に出れるようになったんだわ。」と言っていた人がいた。あの人は鬱病だったのかとびっくりした。

委員：おそらくだが、ケースバイケース。

委員：メンタルクリニックでは、診断名をはっきりと伝えるケースは少ない。患者が医師に聞けば答える。

委員：家族でさえ正式な病名を知らないということもある。経緯は分からないが、病名を知った上で、病気が良くなって外に出てきているのであれば、良かったと思う。

委員：ハローワークだと障害者手帳を持っている方は、専門相談の窓口があり、その窓口で登録をしていただく。障害は精神、知的、身体。通常の登録だと一度登録をして5年間利用がないと登録データは削除される。専門相談の窓口での登録

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

の方は、ずっとそのままデータが登録されているという状態になる。その後ハローワークの利用がないと「どうなっていますか。」と、年に1回登録者に対して求職状況を確認させてもらっている。以前精神手帳を持っている方で、家族から本人が自殺で亡くなったという回答が返ってきたことを思い出した。岩倉市の生活困窮者や生活保護の人でハローワークまで来るのが難しいという方のために、1回/月ハローワークの職員が相談のために市役所に伺っている。そちらの方々にはまず、仕事に対して前向きになってもらうということに重点を置いている。

事務局：令和7年の自殺者の原因と動機は統計が出ている。しかし、個別の原因や動機については不明、件数と人数は一致しない。一人が複数件の場合もある。家庭問題2件、健康問題7件、経済生活問題2件、学校問題2件だった。

委員：老人会自体が、老人に対して一生懸命やってくれているとつい最近知った。お金をたくさん支払わなくて済むように考えてくれている。

委員：色々な部署で色々な取組をされているというのは、敬意を表するが、問題なのはそこへ行けない人だと思う。自殺した人については、悩みがあったのなら何とかできなかったのだろうかと思ってしまうが、それはとても難しいことであつたのだろうか、どうしたらいいのだろうかと思う。

委員長：どの方に支援が必要かということが見極められないところがあるので、難しいと思う。色々な取組の中で自死に至らないように何かがあるといいとは思う。地域福祉の視点が入っているかどうか。

委員：どこかが認めたサロンだけがサロンではないと思っている。この地域で言えば喫茶店が多いので、喫茶店で誰かが見ているということがあると思う。見守りというのも難しいところがある。団地の一人暮らし高齢者見守りサポート隊については、見守られたくないという人がたくさんいる。喫茶店であっても、あの人来ないねという時に、気づいてくれる人がどういるのかの方が大事だと思う。相談機関がたくさんあっても、どこに行ってもいいか分からないのが一番困る。高齢者なら地域包括支援センターや市役所につなげてもらい、そこできちんと受け止めてもらうことが大事。取組は自殺ということに限らず、全体を含めたところでした方が良い。自殺だけを切り取ると、地域の人が大変なことになるので、生活している中で支援をしていく、そんなことが浸透していくといいのではないかな。

委員長：自殺対策の難しいところで、自殺だけ切り取ると受け入れにくくなる。地域での暮らしの中のつながりが、結果的に自殺を防ぐということになる。

委員：今は何でもスマホでできるが、高齢者はスマホを持っていない人もいるし、ガラケーの人もいる。ある家庭では、ダイヤル式の黒電話しかない人もいる。市などでもスマホで申請があるが、できない人もいるので誰でもができるものでないと困る。

委員長：紙や、LINE で発信、多様な発信方法が良いということだと思う。

委員：せっかく色々な立場の方々が集まっている委員会なので、今日の話は議事録となって、これらのことが施策の中に入ってくると良いと思う。

委員長：この委員会で出た意見は、反映していただけるものと思って進めている。出てきた意見は議事録としては残るので、次の施策につなげていただきたいと思います。

4 その他

委員長：事務局から連絡事項はあるか。

事務局：特にない。

委員：近年、がん治療が「入院」から「外来」での抗がん剤治療にシフトしている。副作用による鬱状態と悪心・嘔吐がある中で仕事をしなければならない。入院をしていないので、仕事を休みにくくなった。病院は専門のケースワーカーを置いているが、行政でも相談の窓口を作らないと、多分自殺者が圧倒的に増える。それは岩倉市独自で来年から、自殺対策として検討してみてもいいのではないか。

委員長：貴重な意見だと思う。ぜひ検討していただければと思う。

事務局：これにて、本日の委員会を終了とする。